

静岡県東部地域企業経営動向調査

2018年10-12月期実績
2019年1-3月期見通し

一般財団法人 企業経営研究所

〒411-0036 三島市一番町15-26
TEL 055-981-3033 FAX 055-981-5888
URL : http://www.srgi.or.jp

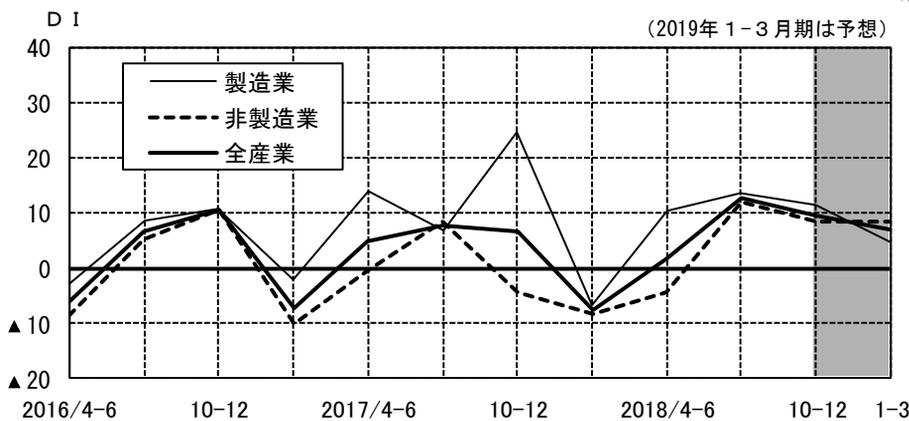
業況概要

～製造業、非製造業とも3期ぶりに低下～

静岡県東部地域における2018年10-12月期の業況判断D I（全産業：前期比）は、3期ぶりに低下した（前期12.6→今期9.6：以下同様）。業種別にみると、製造業では、一般機械器具（12.5→22.7）、パルプ・紙・紙加工品（▲9.1→0.0）では上昇したものの、食料品（7.7→▲9.1）がマイナスの水準に転じ、金属製品、その他製造業も低下したため、全体では3期ぶりの低下となった（13.8→11.5）。非製造業でも同じく3期ぶりの低下（11.9→8.4）。建設、卸・小売・サービスともに低下した。

2019年1-3月期の予想D I（今期比）は、製造業が4.7に低下、非製造業が8.5とほぼ横ばいのため、全産業では7.0と低下が続く見通しとなっている。

《業況判断D I 推移》



業況判断D I（全産業）推移

年	期	D I
2016	4-6	▲ 6.3
	7-9	6.5
	10-12	10.6
2017	1-3	▲ 7.1
	4-6	4.9
	7-9	7.7
2018	10-12	6.6
	1-3	▲ 7.8
	4-6	1.7
2018	7-9	12.6
	10-12	9.6
2019	1-3	7.0

D I：ディフュージョンインデックス (Diffusion Index) の略。

「上昇、増加、好転」した企業割合から「下降、減少、悪化」した企業割合を差し引いたもので、業況判断を見る指標。

《業種別天気図》

業況上昇 ← → 業況下降



	製造業	食料品	パルプ・紙・紙加工品	一般機械器具	非製造業	卸・小売・サービス	旅館・その他宿泊所	建設
2018年 7-9月期	☀️/☁️	☁️	☁️	☀️/☁️	☀️/☁️	☀️/☁️	☀️/☁️	☁️
2018年 10-12月期	☀️/☁️	☁️	☁️	☀️/☁️	☁️	☁️	☁️	☁️
2019年 1-3月期	☁️	☁️/☔️	☁️	☁️	☁️	☁️	☀️/☁️	☀️/☁️

※2018年7-9月期、10-12月期は前期比。2019年1-3月期は今期比予想

《調査の概要》

1. 調査目的

静岡県東部地域（富士川以東）の景気動向と先行きを予測し、主要産業の実態を把握

2. 調査対象企業

静岡県東部地域に立地する企業 461社
回答企業数 230社（回答率 49.9%）
※業種別企業数は4ページ参照

3. 調査方法

当研究所の指定した項目につき、記名式で実績と見通しを記入するアンケート調査

4. 調査対象期間

実績：2018年10-12月期
見通し：2019年1-3月期

5. 調査時点

2018年11-12月

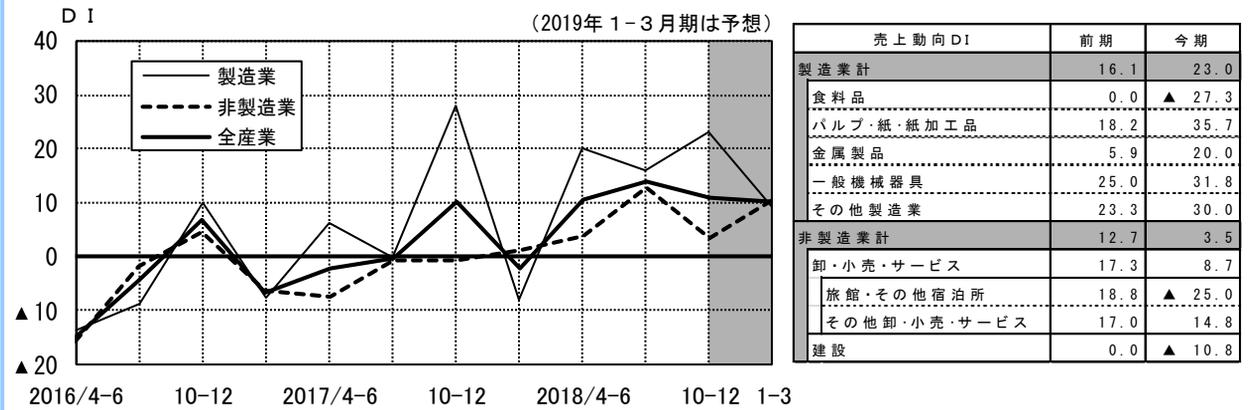
売上動向

製造業は上昇したものの非製造業が低下し、全産業では低下に転じる

2018年10-12月期の売上動向D I（全産業：前期比）は、3期ぶりに低下した（13.9→11.0）。業種別にみると、製造業では、食料品（0.0→▲27.3）が大幅に低下したもののそれ以外の業種は上昇。なかでもパルプ・紙・紙加工品（18.2→35.7）、金属製品（5.9→20.0）が大きく上昇し、全体では16.1→23.0と上昇に転じた。非製造業では、建設（0.0→▲10.8）、卸・小売・サービス（17.3→8.7）ともに低下したため、全体では12.7→3.5と4期ぶりの低下となった。

2019年1-3月期の予想D I（今期比）は、製造業では9.2に低下する一方、非製造業では10.6に上昇する見通しとなっている（全産業では10.1とやや低下）。

《売上動向D I 推移》



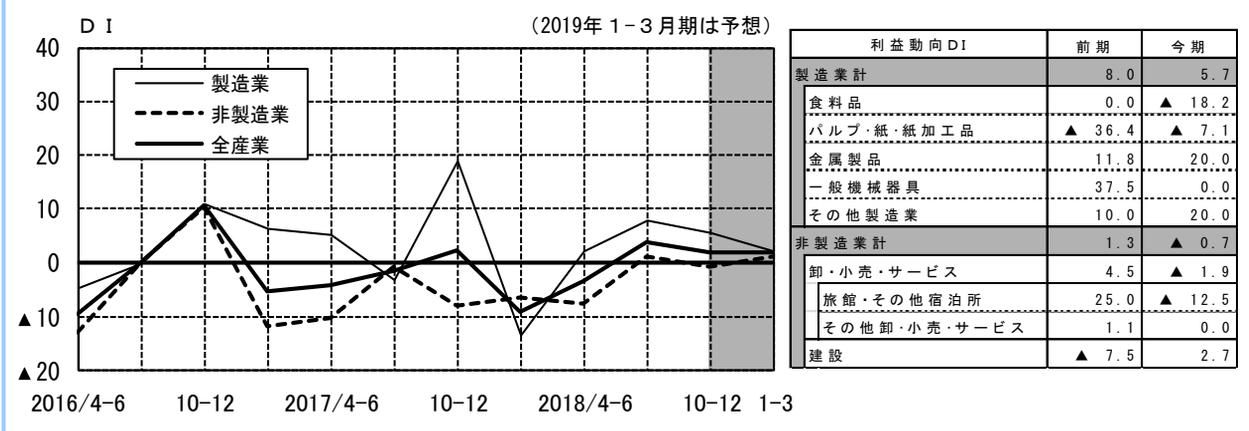
利益動向

非製造業は低下しマイナスの水準に。製造業も低下に転じる

2018年10-12月期の利益動向D I（全産業：前期比）は、3期ぶりの低下に転じた（3.8→1.8）。業種別にみると、製造業では、パルプ・紙・紙加工品（▲36.4→▲7.1）などで改善したものの、一般機械器具（37.5→0.0）、食料品（0.0→▲18.2）が大幅に低下、全体では8.0→5.7と3期ぶりに低下した。非製造業では、建設（▲7.5→2.7）が改善したものの、卸・小売・サービス（4.5→▲1.9）が低下したため、全体では1.3→▲0.7と再びマイナスの水準となった。

2019年1-3月期の予想D I（今期比）は、製造業では2.3と低下が続くものの、非製造業では1.4と反転上昇する見通しとなっている（全産業では1.8と横ばい）。

《利益動向D I 推移》

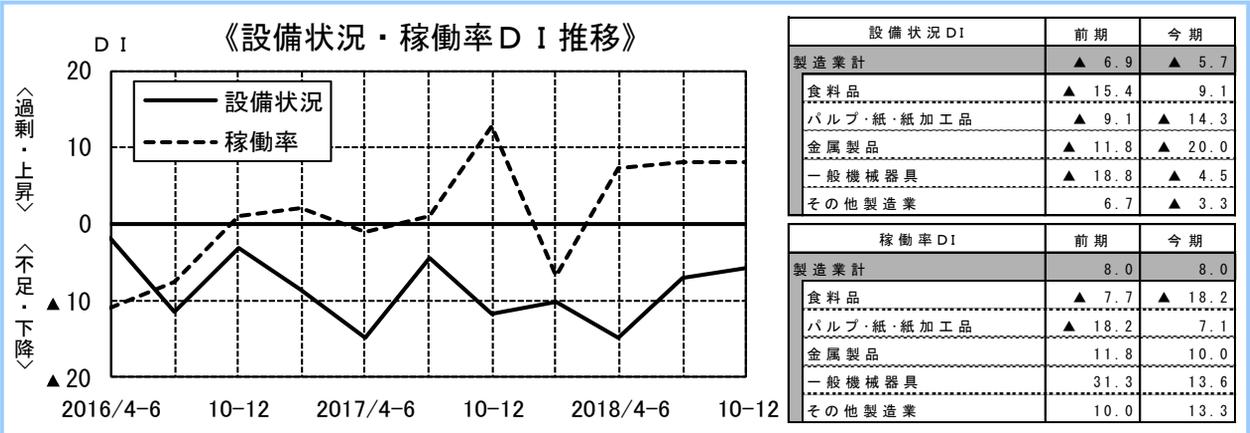


設備状況・稼働率
(製造業)

設備状況は「不足」感がやや弱まる。稼働率は横ばい

2018年10-12月期の設備状況DI(製造業)は、「不足」感がやや弱まった(▲6.9→▲5.7)。業種別にみると、食料品が「過剰」の水準に転じ、一般機械器具で「不足」感が弱まっている。

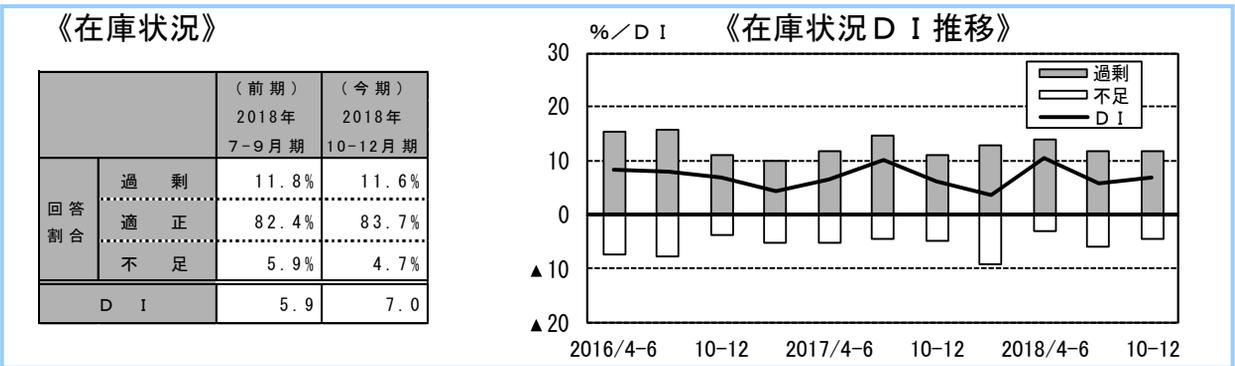
稼働率DI(製造業:前期比)は、横ばいとなった(8.0→8.0)。業種別にみると、パルプ・紙・紙加工品などで上昇した一方、一般機械器具、食料品などで下降している。



在庫状況
(製造業)

「過剰」感がやや強まる

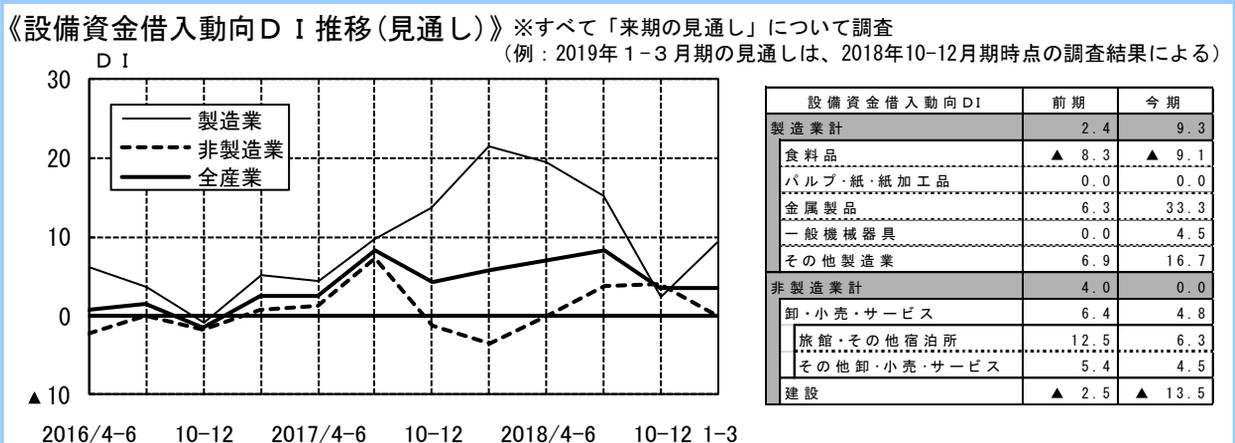
2018年10-12月期の在庫状況DI(製造業)は、「過剰」感がやや強まった(5.9→7.0)。業種別にみると、その他製造業などで「過剰」感が強まったが、一般機械器具などで「過剰」感が弱まり傾向が分かれた。



設備資金借入
動向(来期)

製造業は「借入増加」基調、非製造業は中立水準に

2019年1-3月期(来期)の設備資金借入動向DI(全産業)は、ほぼ横ばい(3.4→3.5)の見通し。業種別にみると、製造業(2.4→9.3)では、「借入増加」の見通しが強まり、非製造業(4.0→0.0)では、中立水準となった。



経営上の問題点

「受注・売上の停滞・減少」の割合が反転増加

「受注・売上の停滞・減少」の割合が低下傾向にあったが、今回の調査では反転増加した。業種別にみると、製造業では、割合が10ポイント超上昇し「人材の育成」に次いで割合が高い項目となり、非製造業では、「求人難」と並び最も割合が高い項目となっている。

《経営上の問題点（上位8項目）》

(複数回答可)

順位	問題点	2018年 4-6月期		2018年 7-9月期		2018年 10-12月期		順位 変動
		企業数	割合	企業数	割合	企業数	割合	
1	受注・売上の停滞・減少	84	36.7%	84	35.7%	93	40.6%	↑
2	人材の育成	102	44.5%	96	40.9%	92	40.2%	↓
3	求人難	81	35.4%	95	40.4%	86	37.6%	↓
4	従業員の高齢化	89	38.9%	91	38.7%	69	30.1%	↓
5	原材料・資材・仕入商品の値上がり	77	33.6%	67	28.5%	64	27.9%	→
6	人件費の増加	51	22.3%	60	25.5%	60	26.2%	→
7	生産・販売能力の不足	48	21.0%	45	19.1%	58	25.3%	→
8	過当競争・製品安	41	17.9%	39	16.6%	49	21.4%	→

(回答企業数：229社) (回答企業数：235社) (回答企業数：229社)

《業種別回答企業数およびD I》

※借入動向(設備資金)は来期の見通し、それ以外は今期実績

業種	回答 企業数	D I							
		業況判断	売上動向	利益動向	設備状況	稼働率	在庫状況	借入動向	
全産業計	230	9.6	11.0	1.8	-	-	-	3.5	
製造業計	87	11.5	23.0	5.7	▲ 5.7	8.0	7.0	9.3	
食料品	11	▲ 9.1	▲ 27.3	▲ 18.2	9.1	▲ 18.2	9.1	▲ 9.1	
パルプ・紙・紙加工品	14	0.0	35.7	▲ 7.1	▲ 14.3	7.1	7.1	0.0	
金属製品	10	10.0	20.0	20.0	▲ 20.0	10.0	0.0	33.3	
一般機械器具	22	22.7	31.8	0.0	▲ 4.5	13.6	4.8	4.5	
その他製造業	30	16.7	30.0	20.0	▲ 3.3	13.3	10.0	16.7	
非製造業計	143	8.4	3.5	▲ 0.7	-	-	-	0.0	
卸・小売・サービス	105	9.5	8.7	▲ 1.9	-	-	-	4.8	
旅館・その他宿泊所	16	▲ 18.8	▲ 25.0	▲ 12.5	-	-	-	6.3	
その他卸・小売・サービス	89	14.6	14.8	0.0	-	-	-	4.5	
建設	38	5.3	▲ 10.8	2.7	-	-	-	▲ 13.5	

特別調査：2019年通年予想D I

2019年通年での国内景気、業況等の見通し(2018年比)を尋ねたところ、業況判断(自社)D Iと売上動向D Iはプラスの水準の見通しとなった。

一方、利益動向D Iはマイナスの水準の見通しで、原材料・仕入・資材単価D Iおよび賃金D Iの上昇幅が販売・受注単価D Iの上昇幅を上回る見通しであることがその要因だと思われる。

主な2019年通年予想D Iを業種別にみると、業況判断(自社)D Iは、製造業では、食料品(▲27.3)と一般機械器具(▲13.6)で下降超の見通しで、全体でも▲1.1と小幅ながら下降超となっている。非製造業では、建設(10.8)、卸・小売・サービス(8.6)ともに上昇超、全体では9.2の見通しで製造業と傾向が分かれている。

売上動向D Iは、製造業(5.7)、非製造業(14.1)ともにプラスの水準で、なかでもパルプ・紙・紙加工品(42.9)の水準が顕著に高い。一方、利益動向D Iは、製造業(▲17.2)、非製造業(▲10.6)ともにマイナスの水準となっている。

また、従業員確保D Iは、製造業(69.0)が非製造業(54.2)を上回っており、製造業でより「(確保が)難しくなる」感が強い。設備投資(自己資金、借入等の合計)D Iは、製造業(19.5)、非製造業(4.9)ともに増加超となっているが、うち建設(▲8.1)のみ減少超の見通しとなっている。

2019年通年予想D I(全産業)	
国内景気	▲ 0.4
業界業況	▲ 4.0
業況判断(自社)	5.2
売上動向	10.9
利益動向	▲ 13.1
販売・受注単価	13.1
原材料・仕入・資材単価	40.1
賃金	54.1
従業員確保	59.8
設備投資	10.5